

# ヒアリング実施要領

---

2016年4月26日  
総務省  
総合通信基盤局

# ヒアリングの実施

## 日時・ヒアリング対象者等

### 第1回 4月14日(木) 13:00～(2時間)

事業者・団体名	時間
日本電信電話株式会社 東日本電信電話株式会社 西日本電信電話株式会社	25分
KDDI株式会社	20分
ソフトバンク株式会社	20分

(意見陳述:65分 質疑応答:55分)

### 第4回 5月13日(金) 10:00～(2時間)

事業者・団体名	時間
一般社団法人情報サービス産業協会	10分
一般社団法人全国銀行協会	10分
一般社団法人電子情報技術産業協会	10分
株式会社日本カードネットワーク	10分
株式会社エフエム東京 株式会社ニッポン放送	10分
総合警備保障株式会社	10分

(意見陳述:60分 質疑応答:60分)

### 第2回 4月19日(火) 16:30～(2時間)

事業者・団体名	時間
株式会社ケイ・オプティコム	15分
九州通信ネットワーク株式会社	15分
株式会社STNet	10分
東北インテリジェント通信株式会社	10分
株式会社ジュピターテレコム	10分

(意見陳述:60分 質疑応答:60分)

### 第3回 4月26日(火) 16:00～(2時間)

事業者・団体名	時間
NTTコミュニケーションズ株式会社	15分
楽天コミュニケーションズ株式会社	15分
フリービット株式会社	10分
一般社団法人テレコムサービス協会	10分
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会	10分
日本生活協同組合連合会	10分

(意見陳述:70分 質疑応答:50分)

## 実施要領

- 電話網移行円滑化委員会が主催し、電気通信事業政策部会の委員同席で、公開により行う。
- 質疑応答は、原則として、当日の全てのプレゼンテーションの終了後、まとめて行う。
- 入れ替え制ではなく、当日のヒアリング対象者は、自らのプレゼンテーション以外の時間(当日のみ)も参加する。
- NTT持株・東西は、全てのヒアリングにオブザーバとして参加する。

## 1. 基本的な考え方

- ① **メタルIP電話**(縮小傾向)と**光IP電話**(拡大基調)について、それぞれ**利用者保護・競争の在り方**をどう考えるか。 等

(この際、メタルIP電話と光IP電話は、アクセス網は別々、中継網は同一(NGN)である点を踏まえ、両者は別々に考えるべきか、一体的に考えるべきか。)

## 2. 移行後のIP網のあるべき姿

(電話を繋ぐ機能の確保等)

- ① IP網での**ハブ機能の在り方**についてどう考えるか。**別添1の案の評価**(POI数、コスト負担、運用・保守の担い手等)はどうか。
- ② **簡便な事業者間精算の方法**(従量制、定額制等)についてどう考えるか。
- ③ 「公衆電話発の通話」「加入電話(ISDN電話を含む)発携帯着の通話」の**料金設定権の在り方**についてどう考えるか。
- ④ NTT東西が、一部の**固定電話を無線で提供すること**について、公正競争やサービスの信頼性の観点から、どう考えるか。

(利用者保護)

- ⑤ 移行により、**自社の提供サービスにどのような影響**を受けるか。**移行後の扱い**はどうか。
- ⑥ フリーコールなど**高度電話サービス**(0AB0、00XY付加サービス)について、移行後の扱いはどうか。
- ⑦ 移行に伴い廃止・変更するサービスについて、**利用者への周知や代替サービスの提供等**にどのように取り組むのか。2020年度後半のISDN(デジタル通信モード)の提供終了には**対応が完了できないとの意見があるが、どうか。**
- ⑧ 移行に伴い、**利用者保護の観点から事業者に必要な対応**は何か。利用者への周知等の際に留意すべき点はあるか。

(公正な競争環境の確保) [別添2参照]

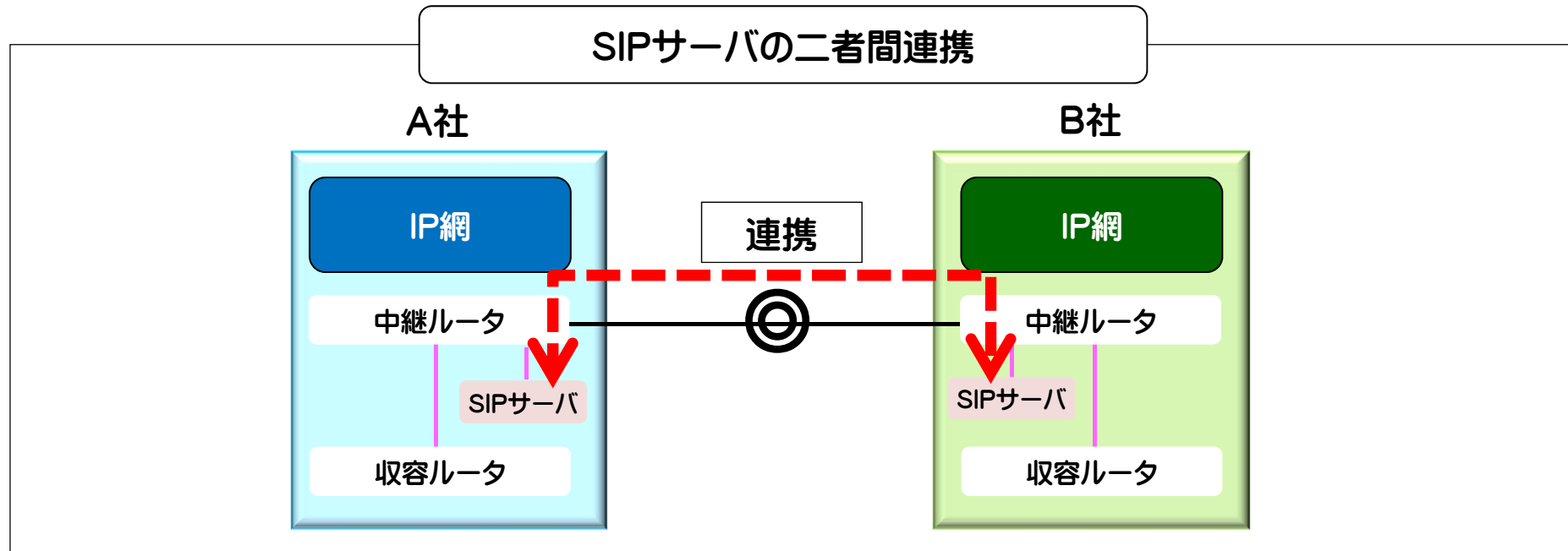
- ⑨ **NGNの更なるオープン化**(優先転送機能のアンバンドルなど)について、**IP電話の基本料等の競争**との関係でどう考えるか。
- ⑩ 事業者識別番号を用いた「**中継選択機能**」について、**通話料**(国際電話や中継サービス等)の**競争**との関係でどう考えるか。
- ⑪ 「中継選択機能」が必要な場合、更に事前登録により事業者識別番号の入力が不要となる「**マイライン**」をどう考えるか。
- ⑫ NTT東西のメタル回線接続料が上昇する中で、縮小する**メタル電話の基本料の競争**をどう考えるか。
- ⑬ 「**双方向型番号ポータビリティ**」は必要か。必要な場合、実現方式やコスト負担の在り方等についてどう考えるか。 等

## 3. 円滑な移行の在り方

- ① 移行開始前、移行期間中(PSTNとIP網の並存期間中)、移行終了までの間で、**円滑な移行のために留意すべき点**は何か。 等

# [別添1] ハブ機能の在り方(案)①

- IP網間での通話を実現するためには、事業者間でSIPサーバを連携させることが必要。
- 事業者間の意識合わせの場では、二者間のSIPサーバの連携について検討中。



PSTNと同様の、複数事業者間の多段階接続の扱い

[案A]

SIPサーバの「三者間以上」の連携を行う

☞ 複雑なSIP管理・連携となり、検討期間、開発コスト等の問題あり

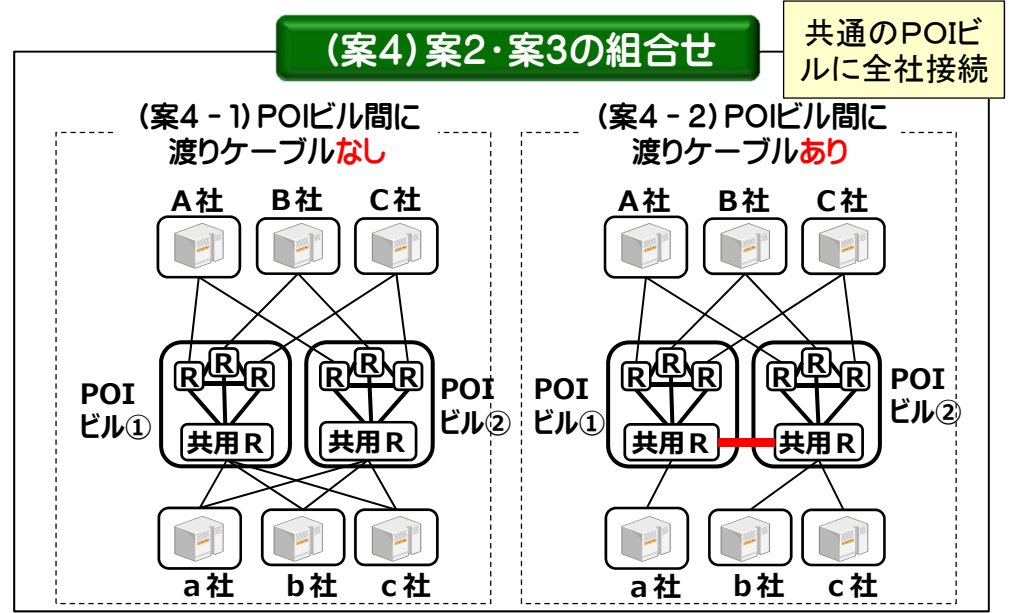
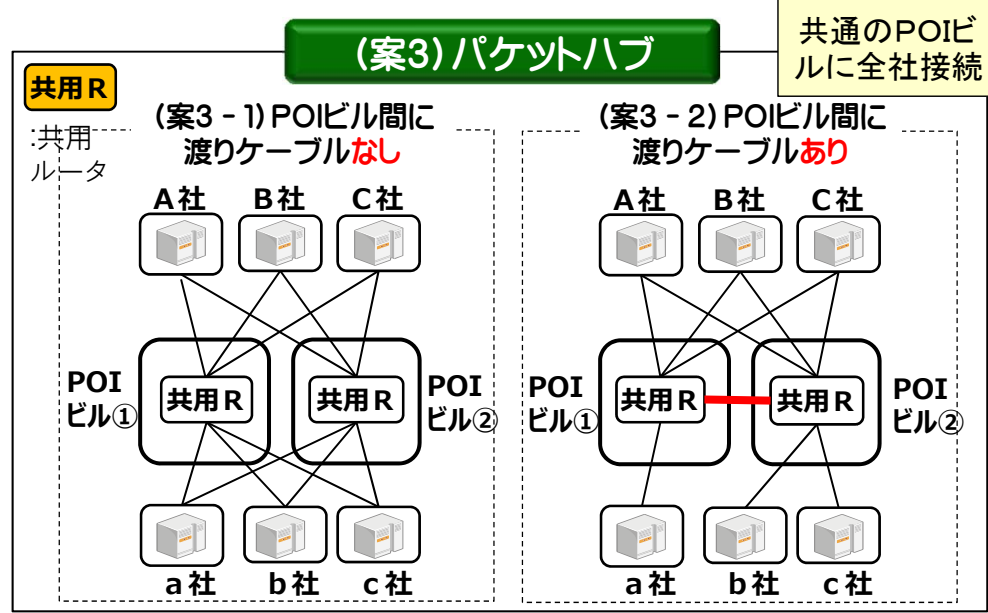
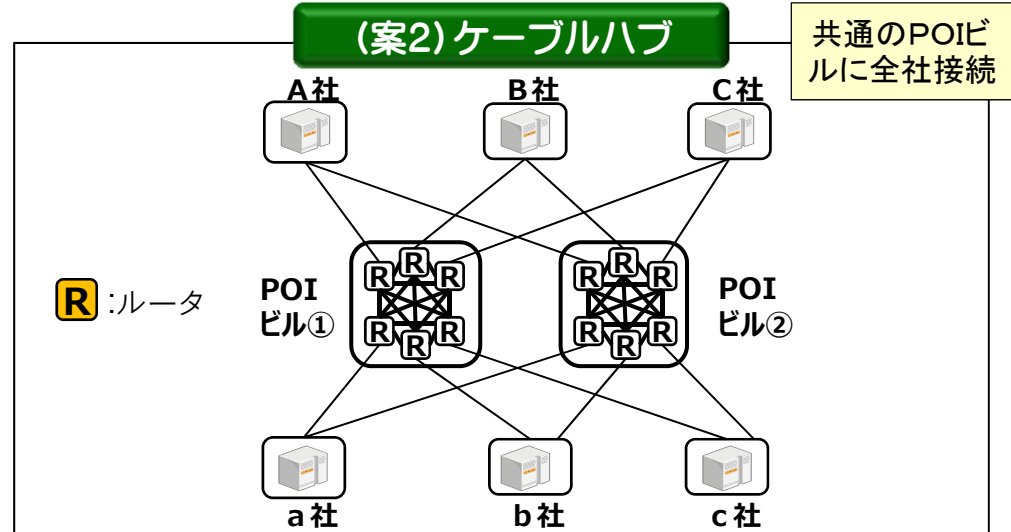
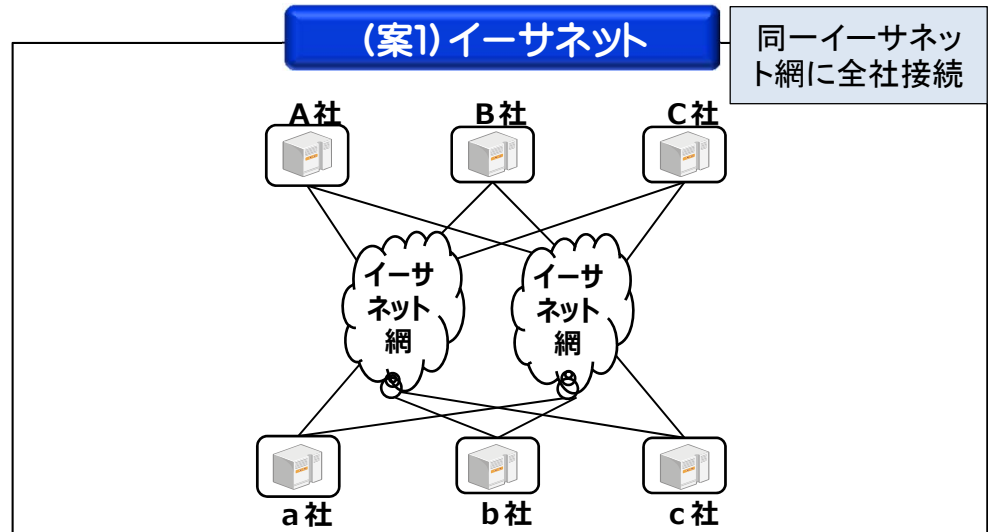
[案B]

SIPサーバの連携は「二者間」にとどめる

☞ 事業者間では、この案を有力として検討(次頁参照)

# [別添1] ハブ機能の在り方(案)②

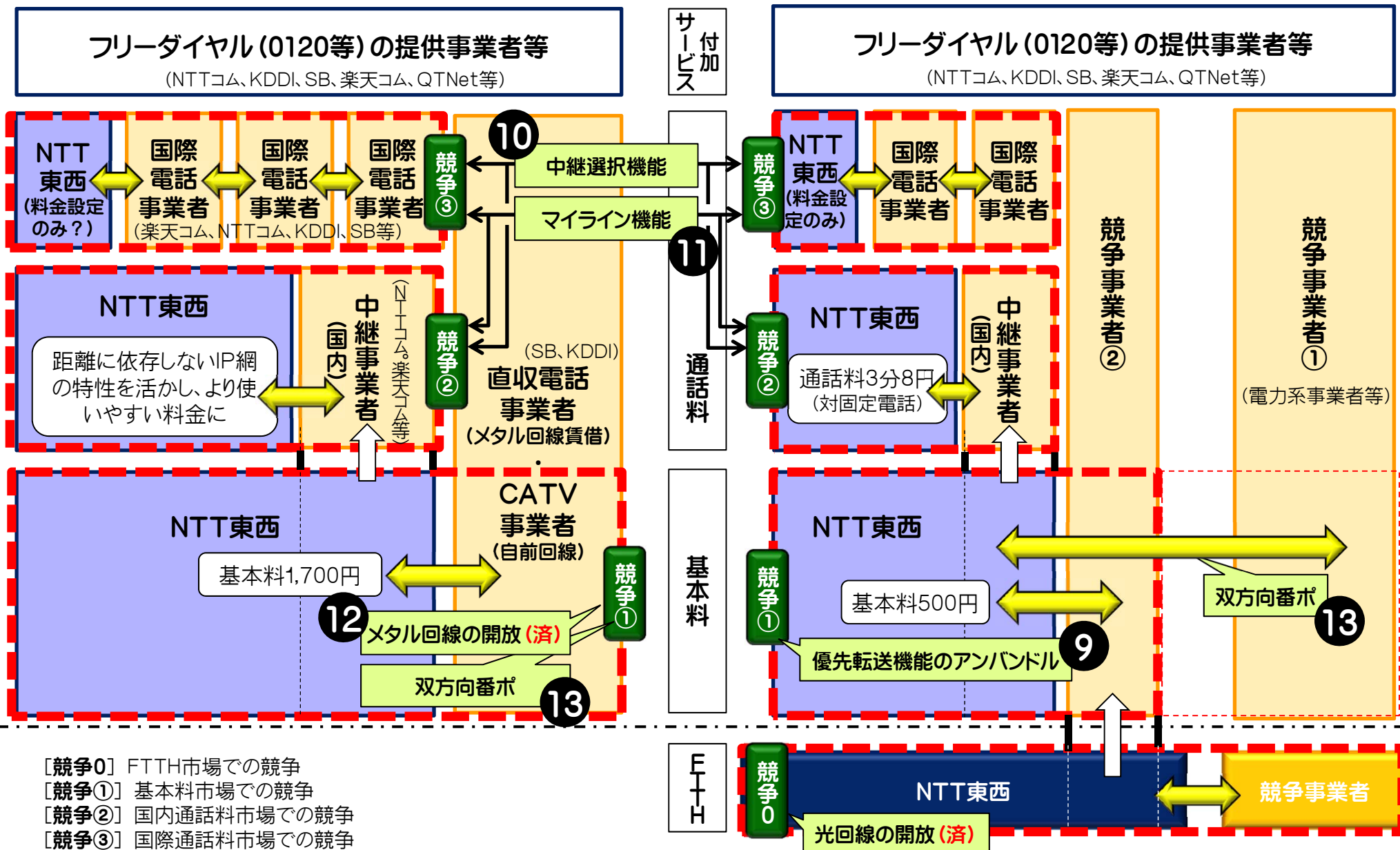
- SIPサーバの二者間連携(前頁案B)を前提に、事業者間の意識合わせの場合では、下記の4案(細分化すると6案)が提案。
- 今後、通話品質・信頼性、保守・運用性、POIビル数、コスト、担い手等の観点から、各案の評価が必要。



# [別添2] 公正な競争環境の整備の在り方

## メタルIP電話

## 光IP電話



- [競争0] FTTH市場での競争
- [競争①] 基本料市場での競争
- [競争②] 国内通話料市場での競争
- [競争③] 国際通話料市場での競争